大人用

伝道地便り

２０２３年 第２期　中央ヨーロッパ支部

第１話「美の神様と出会う」　ルーマニア

第２話「スペインでの種まき」　スペイン

第３話「聖書おじさん」　スペイン

第４話「型破りな脱出計画」　イタリア

第５話「ラジオを聞いた受刑者」　ポルトガル

第６話「宣教地は母国」　ポルトガル

ADVENTIST MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団　伝道局　安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

1）前もって何度か目を通し、自信を持って読む。

2）棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。

3）伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。

4）誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。

5）できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。

6）時には、スキット（寸劇）風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

1．美の神様と出会う　ルーマニア

ヴィオレッタ

ヴィオレッタは子どもの頃、神様を怖がっていました。

当時共産国だったルーマニアではキリスト教が禁じられていて、ヴィオレッタに神様のことを教えてくれたのはおばあちゃんだけでした。しかし、おばあちゃんは、神様について喜ばしいことは何も言いませんでした。

おばあちゃんは、「悪いことをしたら、罰が当たるんだよ」と教えるのでした。

ヴィオレッタは、神様は何でもできて、何でも知っていて、悪いことをするといつも罰を与えるお方だと理解しました。

しかし、大きくなってくると、おばあさんから学んだ神様のイメージは、自分の観察する自然の美しさとは合わないと思うようになりました。春には木が芽吹き、若葉が育ち、やがて美味しい果物が実ります。秋には葉が落ちて、冬の間、枝は何もつけず、春にはまた命を吹き返します。誰かが木の世話をしているはずだ、と彼女は考えました。

ヴィオレッタは鳥の歌声にも心を惹かれ、誰かが鳥たちそれぞれに違った歌を教えているに違いないと思いました。また、人間は理論的に考えることができるけれど動物はできない、という違いにも気づきました。そして、理論的に考える能力は、人間を造られたお方が動物と区別するために与えられたのではないかと考えました。そのお方は優しい創造主に違いないと思いました。しかし、世界を造られた神様が、もしかしたら自分の知っている神様とは違うかもしれない、と思いました。

大人になったヴィオレッタは教会に通うようになりました。そうしないと罰が当たると思ったからです。ですから教会に行っても楽しくありませんでした。彼女はろうそくに火をつけ、偶像に口づけしました。そして、周りの人たちも恐怖のために礼拝していることに気づきました。儀式に何の喜びも感じませんでしたが、やめることはできませんでした。「悪いことをしたら、罰が当たるんだよ」というおばあさんの声がいつも聞こえていたのです。

30 代初めの頃、ヴィオレッタは交通事故に遭いました。その日に限って、シートベルトをしていませんでした。車が横転したとき、彼女は死の恐怖を感じ、「神様、助けてください！」と叫びました。

車は全壊しましたが、彼女は擦り傷一つなく車から這い出しました。そして大きなショックを受けました。車の残骸を見た人は誰もがショックを受けました。屋根が潰れて彼女の座っていた運転席の部分がぺちゃんこになっていたのです。彼女が助かったのは、衝突時の衝撃で助手席に投げ出されたからでした。もしシートベルトをしていたら確実に死んでいたでしょう。

車の残骸を見ていると女性が近づいてきてこう言いました。「あなたは神様にとても愛されていますね。すぐに神様を探して、お会いしてください。」

ヴィオレッタは不審に思いながら話を聞いていました。この女性は、ヴィオレッタの知っている神様とは別の神様のことを話しているようでした。

彼女は様々な教会を訪ねて神様を探し始めました。自分の聖書も手に入れました。イエス様について知りたいと思ったからです。

ある夏の日、黒海で休暇を楽しんでいると、ビーチにテーブルを出して本を売っている人がいることに気づきました。そこにはイエス様についての５冊セットの本があり、買いませんかと勧められました。そして「エレン・ホワイトの本を読んだことがありますか」と聞かれました。

ヴィオレッタは、読んだことはないと答えました。本を売っていた人は、エレン・ホワイトについて何も知らない彼女が各時代シリーズの５冊をセットで買おうとしていることに感銘を受けているようでした。そして「後で電話しても良いですか？」と言いました。

家に帰ると、ヴィオレッタはすぐに『各時代の希望』を読みました。イエス様についてもっと知りたいと思ったのです。

本を売ってくれたユリアがすぐに電話をかけてきて、ヴィオレッタをセブンスデー・アドベンチスト教会の礼拝に誘いました。ヴィオレッタはユリアのふるまいと教会の様子に感銘を受けました。彼らは美と愛の神様を礼拝していました。その神様のイメージは、彼女が抱いていた、自然と人間を造られた神様のイメージと同じものでした。

ヴィオレッタは美と愛の神である聖書の神様に心をささげ､アドベンチスト教会に加わりました。

現在、彼女は聖書研究を通して、聖書に見られる美と愛の神様を人々に伝えています。

「神様は創造者であり、全能のお方ですが、それと同時に私たちを愛してくださっています。この神様こそ、私が子どもの頃出会いたかった神様です｡神は愛であることを私は強く信じています｡」

聖書の学びを含む、教育の働きは、アドベンチスト教会がルーマニアで、美しく愛にあふれた創造主である神の福音を伝える重要な役割を担っています｡今期の 13 回献金の一部は､ルーマニアに学校と学童保育を作り、アドベンチストの教育を進めるために使われます。

〈お話のヒント〉

・13 回献金のルーマニアにおける２つのプロジェクト（小学校と学童保育）の場所を地図で示しましょう。bit.ly/fb-mq
小学校はモイセイ、学童保育はガラツィに作られる予定です。

・ヴィオレッタは、ソラ・スクリプチュラ健康センターの、パートタイム従業員です。このセンターは、教会員たちが国内 50 か所で行う聖書研究や健康セミナー、その他の活動を主導しています。

・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。bit.ly//fb-mq.

・中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。Bit.ly/ecd-2023.

・この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の 「I Will Go」 戦略計画の、以下の項目の具体例です。
「牧師のみならず、全世代の教会員１人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）
「個人または家庭を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- トランシルバニア（ルーマニアの中部・北西部）の初期の宣教活動は、この地域に住む民族の多様性を反映していました。アドベンチストのメッセージの説教は、ドイツ語、ハンガリー語、ルーマニア語で行われました。

2．スペインでの種まき　　スペイン

イヴァンとデリア

引っ越してから最初の安息日、宣教師のイヴァンとデリア夫妻は、自宅で２人きりの礼拝をしました。彼らがやって来たスペインの町には、セブンスデー・アドベンチストは誰もいませんでしたが、この夫婦は、この状況を変えようと決心していました。

イヴァンはメキシコ、デリアはキューバの出身でした。2 人は１年前、ちょうどコロナが流行り始めた頃に、バルセロナのアドベンチストの牧師たちをサポートするためにスペインに来ていました。スペインのロックダウンが解除されると、イヴァンとデリアは、セゴビアという町に教会を建ててくれないかと頼まれました。セゴビアはスペインの首都マドリードから車で 90 分の場所にありました。

最初の安息日、彼らは家で聖書を読み、イヴァンのギター伴奏に合わせて賛美しました。2 人きりでしたが、彼らには希望がありました。聖書の学びに興味を示していたおばあさんを紹介されていたからです。

数日後､デリアはそのおばあさんに連絡を取り、一緒に聖書を学び始めました。次の安息日、家で神様を礼拝したのはイヴァンとデリアだけではありませんでした。そのおばあさんと彼女の４歳の孫も一緒でした。

その聖書の学びは１か月続きました。

安息日に礼拝するメンバーは５人になりました。おばあさんが、孫の母親である、義理の娘も連れてきたのです。おばあさんは、息子のルーカスが来ようとしなかったのでがっかりしていました。

イヴァンはおばあさんにルーカスの携帯番号を聞き、

「奥様と２人でランチにいらっしゃいませんか」とメールを送りました。

数日後、2 組の夫婦は一緒に食事をし、公園で散歩をしました。散歩をしながら、ルーカスは、自分はもうすぐ22歳になると教えてくれました。

イヴァンとデリアは、ルーカスたち家族にサプライズ･パーティを開いてあげることにしました。デリアは伝統的なミルクケーキ（トレス・レチェス）を焼き、明るい緑色のフロスティングをかけて赤い花と緑の葉で飾りました。

ルーカスはとても驚きました。ケーキやパーティでお誕生日を祝ってもらったことが無かったからです。これが初めてのバースデー・パーティと聞き、今度はデリアが驚く番でした。

ルーカスはケーキもパーティもとても喜んで、ずっとニコニコしていました。彼の妻も、４歳の息子も、おばあさんも、みんなが楽しく過ごしました。

この後、ルーカスは聖書研究のグループに入りたいと申し出てきました。そして安息日に家の教会に来るようになりました。安息日に神様を礼拝

する人は6人になりました。イヴァン、デリア、おばあさん、4歳の孫、義理の娘、そしてルーカスです。イヴァンはギターを弾き、みんな喜びにあふれて賛美しました。

おばあさん、ルーカス、他のみんなが、それぞれ友人を教会に誘い、一緒に賛美を楽しみました。するとおじいさんも、音楽を聴くために教会に来るようになりました。

1年半後、セゴビアは、アドベンチストのいない町から、安息日に30人が家の教会に定期出席する町になりました。18人が聖書研究をしていて、6人がバプテスマを受けました。教会の建物を借りる計画も進行中です。

「教会に来る人の数が増えてきているので、教会の建物を探しています」とイヴァンは言っています。それに続けてデリアが、「安息日に礼拝をささげるだけでなく、平日は地域の方に働きかけることができる、感化センターが欲しいです」と言いました。

スペインには、アドベンチストのいない町がたくさんあります。3年前の13回献金を感謝します。その献金は、スペインのサガント・アドベンチスト・カレッジで、イエス様の再臨の福音を国内外に伝えるために学生たちを訓練するために使われました。

〈お話のヒント〉

・ルーカスは仮名です。
・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。bit.ly//fb-mq.
・ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/eud-2023
・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。

「大都市における、神を知らない、もしくは神を受け入れていない人々や他宗教の人々へのアドベンチストの働きかけを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）。

「子ども、青年の入信、定着、 再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）

「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- 1960年代、スペインの教会のアンヘル・コデホン総理は、この地域で信教の自由を求める活動を開始しました。その結果、教会が、すべての伝道活動と、礼拝を行うことが公式に許可されました。新しいスペインの憲法により、1978年10月、教会は完全な自由を与えられました。若い男性は、軍隊にいる間、宗教に忠実であることを理由に投獄される心配がなくなりました。
- サグント・アドベンチスト・カレッジ（Centro Universitario Adventista de Sagunto）は、1965年にスペイン東海岸のバレンシア州に設立されました。このカレッジは、学位を修得できる神学科、スペイン語学科、音楽学科、芸術学科を提供しています。

３．聖書おじさん　スペイン

レムス

レムスは、「聖書おじさん」と呼ばれています。

レムスは看護師で、建築家の妻と３人の子どもたちと一緒に、フランスで快適な生活を送っていました。幸せになるための条件はすべて備わっているように見えました。しかし、何かが欠けていました。

レムスは、イエス様が父なる神様にささげた次の祈りを、自分もささげたいと願っていました。「わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました」（ヨハネ 17：4）

レムスも生活の中で神の栄光をあらわしたいと思っていました。しかし、どうすれば良いのでしょうか？

レムスは、自分の使命はイエス様が会堂で宣言されたようなものではないだろうかと思いました。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」（ルカ 4：18、19）。

そして、イエス様が弟子たちと別れるときに与えられた指示も読みました。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ 28：19、20）

また、エレン・ホワイトの著書『文書伝道』も読みました。「文書伝道が正しく行われるならば、最高の伝道事業であり、……」（ｐ6）。

レムスは文書伝道者になることに決めました。彼自身の言葉によると「欲しがってもいない人に本を売ろうとする人」になりたいと思ったのです。

レムスは家族と共にガリシアに移住しました。ガリシアはスペインでも最も世俗的な地域です。300 万人の人口のうち、アドベンチストは 500 人ほどで、5 つの教会に分かれて礼拝していました。

レムスはあちこちの青空市場で聖書やその他の本を売り始めました。青空市場では農作物、衣服、おもちゃ、本、中古品などが売り買いされていました。聖書を売っているうちにレムスは、「聖書おじさん」と呼ばれるようになりました。

ある青空市場で、レムスは同じように本を売っている人に出会いました。レムスは彼のところに行って話し始めました。

その男は会話を楽しむ気分ではないようでしたが、だからといって背を向けることもありませんでした。「あんたには人とどこか違うところがあるね」と彼は最後に言いました。

市場で何度も言葉を交わしたのち、彼はレムスの本を数冊、自分の屋台に置いてくれることになりました。

レムスはお礼に聖書をプレゼントしました。

彼は家で聖書を読み、レムスに聖書研究をしてくれるよう頼みました。数か月後、彼はイエス様に心をささげる決心をしました。今、彼は、自分

の娘や姉妹、母親にも、イエス様を受け入れるよう働きかけています。

彼とレムスは友達になりました。会うたびに彼はいつも、「やあ、聖書おじさん！」と呼びかけます。

聖書がひとりでに売れることもあります。ある時、レムスが聖書を運んでいると、「それは聖書ですか？」と話しかけてきた人がいました。

「はい。聖書を売っています」とレムスが答えると、「1 冊いくらですか」と聞かれました。

「10 ユーロ（約 1400 円）です。」

「では 1 冊ください。」

この時、レムスは何もしなくても聖書が売れたのです。やったことと言えば家を出ただけです。聖書を売ったのは神様です、と彼は言います。

また、聖書を売っているレムスを見て文字通り飛び上がって喜んだ女性もいました。

「聖書が欲しくて神様にお祈りしてたのよ！これは神様からのお返事だわ！」と言って彼女は新しい聖書にキスしました。

また、120 キロ移動して、ある青空市場に行ったことがありました。嬉しいことに、その日はたくさんの本が売れました。しかし、夕方になって、その日のガソリン代をまかなうだけの売り上げがないことに気づきました。

「今回の遠出に価値があったのかなぁ」と思ったところに、90 歳ほどの男性が近づいてきました。「聖書を置いていますか」と、彼は聞いてきました。

この男性は、イエス様は自分のことを愛してくださるのだろうかと思っていました。レムスは喜んで、イエス様とその愛について話しました。2 人とも涙を浮かべて、イエスの愛について考えました。そして彼は聖書を買いました。

イエス様を知るのに遅すぎることはありません。この老人に会ってイエス様の愛を分かち合えたことは、十分に市場まで出かけた価値のあることでした。レムスは天国のイエスの元で、この男性とまた会うことを願っています。

レムスはスペインで神様に仕えることができて幸せに思っています。「命のパンを求めている人はたくさんいます。私たちは聖書を渡すことで、彼らを助けることができます。」

レムスは、「聖書おじさん」と呼ばれることも喜んでいます。

スペインには、アドベンチストのいない町がたくさんあります。3 年前の 13 回献金を感謝します。その献金は、スペインのサガント・アドベンチスト・カレッジで、イエス様がまもなく来られるという福音を国内外に伝えるために学生たちを訓練するために使われました。

〈お話のヒント〉

・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。bit.ly//fb-mq.

・中央ヨーロッパ支部の情報は「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/eud-2023

・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員 1 人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）

「10/40 ウィンドウの中にある伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分ではない地域に住む人々とキリスト教以外の宗教に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No. 5）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- 紀元前 8 世紀にスペインに渡ったフェニキア人は、この（スペイン）半島を「Span（隠された土地）」と呼びました。
- マドリッドにある「エル・レストラン・ボティン」は、1725 年にオープンした世界最古のレストランです。

４．型破りな脱出計画　　イタリア

ジョルジオ

ジョルジオは、共産主義国ルーマニアを出国するために完璧と思える脱出計画を思いつきました。

彼は、ルーマニアの首都ブカレストからフランスのパリに向かう列車に乗り込む、幸運な人々の様子を見ていました。すると、客車の天井と屋根の間に隙間があることに気づきました。それは青年が１人隠れるのに十分なスペースでした。

切符無しに乗ることはできませんが、パリ行きの列車はいつも､駅を出た後に数分間停車します。その間に線路を横切り、車内に乗り込み、隙間に身を隠すことは十分に可能でした。当時ルーマニアからの逃亡は犯罪行為で、捕まったら刑務所に行くことになります。しかし､1982 年当時､20 歳の彼は新しい生活を求めていました。

ジョルジオはこの計画を思いついたのは自分が最初だと思っていましたが、そうではありませんでした。警備員は、この型破りな計画を予期していて、彼を捕まえました。彼は２週間にわたって尋問されました。当局は彼に、反共産主義者かどうか、国から機密事項を持ち出そうとしていたのか、などを尋ね、裁判の判決を待つまでの間、牢屋に入れました。

ジョルジオは無神論者でした。彼は政府のイデオロギーは拒絶していましたが、クリスチャンよりは無神論者の方がましだという政府の言葉は信じていて、神を信じているのは、愚かな人だけだと思っていました。

牢の中でジョルジオは、初めてセブンスデー・アドベンチストの人に会いました。この若者は、ジョルジオとほぼ同年齢でした。彼は徴兵されていて、安息日に働くことを拒否したために、牢屋に入れられていました。ジョルジオは、彼の行動や表情が、ここにいる他の人たちとは違っていることに気づきました。彼は良い人のように見えました。2 人は言葉を交わし始めましたが、ジョルジオが驚いたことに、この男性は神を信じているにも関わらず、愚かではありませんでした。

このアドベンチストの男性は、ルーマニアでは禁止されていた聖書について話してくれました。

ジョルジオは好奇心をそそられ、釈放されたら聖書を見つけて学ぼうと決心しました。

この決心をしてから数時間後、ジョルジオは逃亡を企てたことへの判決を受けるため、法廷に連れていかれました。他の人への見せしめとして、厳しい判決が下されるだろうと思っていました。すでに２か月も､彼は牢屋に入れられていました。

しかし､裁判官は異例の判決を下しました｡「直ちに釈放する」と言ったのです。

検察は異議を唱えました｡「彼は国家に対して罪を犯したのです」

それでも裁判官は判決を変えず、ジョルジオを法廷に連れてきた警官に向かって､「いつ釈放できますか」と尋ねました。

「明日釈放できます」と警官は答えました。

ジョルジオを連れ帰りながらその警官は､「あんたは誰か大物の知り合いがいるんだね」と、驚いたように言いました。

ジョルジオは、権力者など知らないと言いかけ

ましたが、天におられるお方が助けてくださったのかもしれないと思いました。

しかし、ジョルジオは翌日釈放されませんでした。その次の日もです。6 日目になって、アドベンチストの友人が聞いてきました。「裁判官は本当に、すぐに釈放すると言ったの？」

その時、ジョルジオは、釈放されたらすぐに聖書を学ぼうという決心を思い出しました。そこで、牢屋の中でも、アドベンチストの友人に助けてもらって聖書を学ぼうと決めました。彼が友人にこの決断を話しているとき、看守がやって来て、「明日の労働は無しだ。釈放されるから牢の中で待ってなさい」と言いました。

そして、その通りになりました。

ジョルジオは、神様との約束を守りました。アドベンチストの教会を見つけ、毎週安息日に礼拝するようになりました。彼の人生は変わりました。もうルーマニアから逃れたいとは思いません。もっと大切なものを見つけたからです。それはイエスにおける自由です。彼は幸せでした。

ジョルジオは共産主義が崩壊した後に、ルーマニアを離れ、今はイタリアに住んでいます。そして、ローマのルーマニア・アドベンチスト教会の忠実なメンバーです。彼と妻には、子どもが３人と、孫が８人います。

今日に至るまで、裁判官がなぜ彼を釈放したかはわかりません。神様が介入されたに違いない、と彼は確信しています。

ジョルジオは一緒に牢にいたアドベンチストの友人と今も連絡を取り合っています。安息日に働くことを拒否したため、懲役２年の判決を受けましたが、ジョルジオが釈放されてから２か月後、大統領の恩赦により釈放されました。収監されていたのは１年だけでした。そして彼は現在、建設会社の社長になっています。

ジョルジオは現在 60 代。痩せ型で、白髪に優しい微笑みをたたえた男性です。彼の顔を見ても、彼の驚くべき神との経験については何もわかりません。彼の証を聞くには、尋ねるしかありません。ですからジョルジオも、人々に個人的な証をよく尋ねています。

「この経験があるから、私は家に人を呼んで、その人たちのお話を聞くのが好きなのです。顔を見ただけでは、どんな経験をしてきたのかはわかりませんからね」と彼は言います。

今期の 13 回献金は、イタリア、ルーマニア、そして中央ヨーロッパ支部内の国々に、イエスにおける自由という福音を広めるために用いられます。皆さんの献金を感謝します。

〈お話のヒント〉

・お話を聞いている人たちに、人生を変える神の力についての個人的な証を互いにするよう、また、他の人たちに話を聞いてみるよう促しましょう。
・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。bit.ly//fb-mq.
・中央ヨーロッパ支部の情報は「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/eud-2023
・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No. 5）
「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No. 7）詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- イタリアは、ヨーロッパで初めてセブンスデー・アドベンチストの真理が伝えられた国です。ポーランドの元神父であるミヒャエル・ベリナ・チェコウスキーは、ヨーロッパに派遣されることを求めてアドベンチスト教会を説得しましたが失敗し、他の教派からの支援を得て、1864 年にイタリアに到着しました。

５．　ラジオを聞いた受刑者　　ポルトガル

アナ

ポルトガルで刑務所暮らしをしていたパウロに、ラジオをくれた人がいました。そのラジオは、高等教育を受けた科学者であるパウロにとって、牢の中で気を紛らわせる唯一のものでした。チューニングしてみましたが、電波を拾えたのはセブンスデー・アドベンチストのラジオ局だけでした。窓のそばの決まった場所に立たないと聞くことができませんでしたが、彼はアドベンチストの番組を聞くようになりました。

ある日、ラジオでエレン・ホワイトの『各時代の大争闘』をプレゼントするとの話がありました。パウロは応募して、その本を送ってもらいました。

しばらくして、パウロは別の刑務所に移送されることになりました。移送先が希望していたところではなかったのでがっかりしましたが、新しい刑務所はアドベンチストのラジオ局の近くで、番組がよく聞こえるようになりました。

パウロはラジオ局のディレクターに長い手紙を書き、今なぜ刑務所にいるのか、どうやってラジオ番組を聞くようになったかを伝えました。

「毎日聞いている番組のおかげで、私の人生は変わりつつあります」と彼は書きました。

ラジオ局のディレクターは、パウロが前の刑務所で番組を聞いていたことに驚きました。そのディレクターは以前の刑務所の近くに住んでいたのですが、ラジオの電波を拾えたことがなかったからです。

コロナのパンデミックが始まると、ラジオ局は安息日の礼拝を流し始めたので、パウロは説教を聞くようになりました。ある説教の中で、説教者は聖書研究を始めるよう人々に勧めました。パウロも始めることにして、教会のボランティアであるアナと一緒に、郵送で聖書研究を始めました。

科学者であるパウロは、好奇心旺盛で、たくさんの質問をしました。聖書研究を終えると、バプテスマを受けたいと希望しましたが、コロナによる制限と手続き上の問題により、彼の希望は却下されました。

それから彼はアナと黙示録の研究を始めました。黙示録の学びを終えると、エレン・ホワイトの著作を聖書と比較して学び始めました。

彼の学びは現在も続いています。アナはパウロができるだけ自分で聖書の学びを続けられるようにしたいと思っています。「彼には自分で聖書を学ぶ術を身につけて欲しいと思っています」とアナは言います。

パウロはアナに、他の受刑者たちにも聖書研究をして欲しいと頼みました。アナはそれを聞いて喜びましたが、彼らに教える役はパウロにやって欲しいと思いました。そこで彼に、受刑者たちに聖書研究をしてあげるようにと促しました。「私は彼に、私たちが実際に会えない人たちに働きかけるための道具になって欲しいと思っています」とアナは言います。

ポルトガルのアドベンチストにとって、刑務所にいる人々と面会するのはとても難しいことです。

パウロは、自分がイエス様について教えられるほど、聖書をよく理解していないことを心配しま

した。また、他の人に教えるには道徳的な権威に欠けているとも思いました。何と言っても、刑務所にいるのですから。

しかし、アナは彼を励まし続け、彼の心配は徐々に消えていきました。彼は１人の受刑者と聖書研究を始め、他の２、３人の受刑者とは定期的にイエス様について話しています。また、彼のカウンセラーにも、イエス様のことを話しています。ポルトガルの刑務所では、カウンセリングを受けるように言われる者もいましたし、義務付けられなくても、自分から受けたいと願い出ることができました。パウロのカウンセラーは無神論者でした。パウロは彼にイエス様について話しましたが、彼はパウロの信仰に疑問を投げかけました。「君のような科学者が、どうして科学が証明できないことを信じるんだ？　君が信じていることは全部おとぎ話じゃないか。」

カウンセリングの時間は、信仰についての対話になりました。パウロは、聖霊が導かれているのを感じました。言おうとは思っていなかった頭の中の言葉が、口から出てきました。ある面談で、カウンセラーに『各時代の大争闘』を読んではどうかと言いました。カウンセラーが同意したのでパウロは自分の本を渡し、カウンセラーはそれを読み始めました。

パウロはアナへの手紙に、刑務所での暮らしは楽ではないと書いています。彼は食生活を変え、バプテスマを受けたいと考えていますが、刑務所には制限があるので、簡単にはいきません。しかし、彼は刑務所にいることに感謝しています。「ここにいたおかげで、イエス様に出会うという経験をすることができました。振り返ってみると、すべての出来事は、私の人生を変えるために神様が導かれたのだと思います。」

アナによると、パウロが刑務所にいるのは彼自身の悪い決断によるもので、無実の罪で収監されているわけではありません。

その上でアナはこう言っています。「そうではあっても、彼は私たちが手を差し伸べることのできない場所で神様の道具となるように召されたのだと、私は信じています。私は彼があの場所における宣教師なのだと心から信じています。彼自身はそのことに気づいていないかもしれませんが。」

受刑者への聖書研究を含む、教育の働きは、セブンスデー・アドベンチスト教会がポルトガルでイエス様の再臨の福音を広めるための主要な方法です。今期の 13 回献金の一部は、ポルトガルのセトゥーバルに小学校を開校し、アドベンチスト教育を広めるために用いられます。皆さんの惜しみない献金に感謝します。

〈お話のヒント〉

・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。bit.ly//fb-mq.

・中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/eud-2023

・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go 戦略計画」の以下の項目の具体例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員１人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- スティーブン・N・ハスケル（1833-1922）は、ポルトガルを訪問した最初のセブンスデー・アドベンチストの牧師です。ハスケルは 1889 年から 1890 年にかけて、アドベンチスト宣教を前進させるために有利な場所を探して世界中を旅し、1889 年７月にポルトガルに到着しました。ハスケルはリスボンの街、特に立憲君主制によってポルトガルに保証されていた宗教の自由に感銘を受けました。

６．宣教地は母国　ポルトガル

ヴィクターとユーニス

ヴィクターとユーニスは、アドベンチストの宣教師になってアンゴラやモザンビークなどの外国で働きたいと切に願っていました。けれども 1974 年に母国ポルトガルで革命が起こったために、その夢は断たれたかのように思えました。

しかし、物事は違った方向に転がりました。ポルトガルの軍隊が独裁政権を追放すると、法律が変わったのです。アドベンチスト教会は初めて、国内で学校を設立することができるようになりました。革命が国内に新しい宣教地をもたらしたのです。

革命後の数か月、ヴィクターとユーニスの教会の人々は、エレン・ホワイトの教育に関する勧告に引き付けられました。「私たちの教会や、信者たちのグループは、教会の学校を建設すべきです。その学校には真の宣教精神を持った教師がいて、子どもたちは宣教師になるべく訓練されます。安息日を守る人々の子どもたちに、科学だけではなく、聖書を通した教育を施すことができるよう、教師たちを訓練することは非常に重要です。それぞれの地域で、神を畏れる男女によって運営されるこのような学校は、預言者の学校と同じ原則に基づいて建てられなければなりません」（『レビューアンドヘラルド』1908 年 7 月 2 日、英文）。

教会員たちは教会の学校を設立することにしました。

アドベンチスト 4 世で、公立校の教師をしていたユーニスは、ポルトガル第 2 の都市ポルトの郊外に設立される学校で教えて欲しいとの招きを受け入れました。

彼女の決断は、信仰による大きな一歩でした。アドベンチスト教会はポルトガルで学校運営をしたことがなく、すべてを一からしなければなりませんでした。

「まるでアンゴラのような宣教地に行くみたいでした。前例がなかったので、何もかも自分たちで考えました」とユーニスは言います。

教会員たちが学校のための土地を買って、1975 年に授業が始まりました。小さな教室に集まった最初の生徒は、地元の教会の子どもたちでした。

学校が有名になってくると、入学希望者が増加しました。他のアドベンチスト教会の親たちをはじめ、地元の薬局のオーナーや市長など、影響力のあるノン・アドベンチストの人々も、子どもたちをこの学校に通わせるようになりました。

ユーニスは定年までこの学校で教えました。ヴィクターは電気エンジンを組み立てる仕事を 21 年間していましたが、その仕事を辞めてこの学校に戻り、教師になりました。彼もユーニスも、それぞれ校長を務めた時期があります。

ポルトガル初のアドベンチスト学校は、長年にわたり、宣教精神を持った子どもたちを多く育て、教団総理、少なくとも 14 人の牧師、4 人の文書伝道者を輩出してきました。

ヴィクターとユーニスは、子どもたちが心をイエス様にささげ、バプテスマを受ける姿を見るこ

とを、喜びとしてきました。

2 人の心に残っている思い出の 1 つに、ノン・アドベンチストの家庭から来た 18 歳の男子生徒のことがあります。彼は、学校でボランティアをしていたアドベンチストの若い女性と知り合い、2 人は付き合うようになり、やがて結婚しました。現在この夫婦は忠実な教会員であり、2 人の成長した娘がいます。1 人は医師、もう 1 人はパスファインダーの指導者です。

ヴィクターは市が彼の教育への貢献をたたえようとした時のことを思い出します。市は、街の通りに、彼の名前をつけようと提案しました。しかし、ヴィクターは、「そんなことはしなくて良い、自分を覚えていて欲しいとは思わない。街路には学校の名前をつけて欲しい」と伝えました。

こうして、街の通りのひとつに、アドベンチストの学校の名前がつけられることになりました。

ヴィクターとユーニスは、現在 70 代です。2 人は人生を振り返り、自分の国で宣教師になるようにとの召しに、応えられたことに喜びを感じています。

「昔は、アンゴラかモザンビークで宣教師になりたいと思っていました。しかし、革命のせいでその道が絶たれました。そのとき、私たちの宣教地はここだと気づいたのです。この学校での教師の働きは私にとって、神様から与えられた使命でした」とヴィクターは言います。

ユーニスは、多くの人が離れて行った後で、イエス様が 12 弟子と交わした会話を思い返します。「そこで、イエスは十二人に、『あなたがたも離れて行きたいか』と言われた。シモン・ペトロが答えた。『主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。』」（ヨハネ 6：67、68）

ユーニスはペトロに賛同して、こう言っています。

「イエスでなければ、だれに従えばよいのでしょう？　アドベンチストの学校ができたなら、そこが私の行くべき場所でした。」

教育の働きは、セブンスデー・アドベンチスト教会がイエス様の再臨の福音をポルトガルに広めるための主要な方法です。今期の 13 回献金の一部は、ポルトガルのセトゥーバルに小学校を開校し、アドベンチスト教育を広めるために使われます。13 回献金は、4 か国における 5 つのプロジェクトを助けます。皆さんの惜しみない献金を感謝します。

〈お話のヒント〉

・お話を聞いている人たちに、伝道地のための献金は、神の言葉を世界中に広めるための贈り物であること、13 回献金の 4 分の 1 は中央ヨーロッパ支部の 4 つの国における 5 つのプロジェクトのために直接送られることを確認しましょう。プロジェクトについては『聖書研究ガイド』の裏表紙に書いてあります。
・中央ヨーロッパ支部の中で今回献金を受け取る国（ポルトガル、フランス、スイス、ルーマニア）の場所を確認しましょう。bit.ly/fb-mq から地図をダウンロードできます。
・ヴィクターとユーニスの姓はアルブスです。学校の名前は Colégio Adventista de Oliveira do Douro で、頭文字を取って CAOD と呼ばれています。
・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。bit.ly//fb-mq
・中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/eud-2023

・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。
「牧師のみならず、全世代の教会員 1 人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No. 5）
「子ども、青年の入信、定着、 再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No. 6）
「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No. 7）
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

〈今後の 13 回献金の伝道計画〉

来期の 13 回献金は、トランス・ヨーロッパ支部の 2 つのプロジェクトを支援します。
・ラトビア・リガの感化センターのために。
・モンテネグロ、ゼレニカのユースキャンプのために。